

# 群馬県立女子大学 FLRI Newsletter

## Foreign Language Research Institute

# 外国語教育研究所だより

Vol.42 2023.3.22

外国語教育研究所は群馬県における外国語教育の拠点として、外国語教育の充実、地域社会への貢献、グローバル人材育成及び国際交流の促進に寄与することを目的として、様々な事業に取り組んでいます。

## 2022年度明石塾 活動報告 (10月～2月) 多くの学びと気づきがありました

明石塾21期生の活動は、2月18日をもって全て終了しました。今年の塾生たちも、「質問力を鍛える」をキーワードに、英語を「道具」として使いながら、研究員の英語講義やディスカッション活動に全力で取り組んできました。ここで学んだことや仲間との絆を大切に、明石塾が目指す「国際的な視野と高い志」をもって国際社会で活躍することを期待しています。

日付	午前研修 (10:00～12:30)	午後研修 (13:30～16:00)
10月15日(土)	英語研修⑨ Environmental Problems Mark Yoshida 研究員	研究所係員講義① 「ことばを楽しもう」 江原主幹
10月22日(土)	英語研修⑩ Globalization and How it Affects Japan Timothy Witherow 研究員 Harry Meyer 研究員	副所長講義① 「宝物と自分」 町田副所長
11月12日(土)	英語研修⑪ Climate Change Harry Meyer 研究員	副所長講義② 「English Presentationからみえたもの」 町田副所長
12月10日(土)	英語研修⑫ Problems Facing the World in the 21st Century Dermot McSweeney 研究員	英語研修⑬ Current Issues David Sakai 研究員
12月17日(土)	英語研修⑬ U.N. Mock Debate Dermot McSweeney 研究員	明石先生著書講読・ディスカッション 町田副所長
1月21日(土)	英語研修⑭ Positive Intelligence Milena Kanna 研究員	研究所係員講義② 「英文法を楽しもう」 江原主幹
1月28日(土)	Final Presentation Preparation① Harry Meyer 研究員	ディスカッション「自分たちが考える明石先生」 町田副所長
2月4日(土)	名誉塾長・明石康先生御講義 (オンライン)	Final Presentation Preparation② Harry Meyer 研究員
2月18日(土)	Final Presentation Preparation③ 全研究員	(13:00) 研修成果発表会 (公開) (14:30) 修了式 (公開)

## 名誉塾長 明石 康先生御講義 (オンライン) 2月4日

2022年度最後の研修として、明石康名誉塾長によるオンライン講義が行われました。塾生と明石先生の質疑応答について紹介します。

### 根岸羽多さん(高崎女子高校2年)

明石先生の有名な言葉の中に「眼は遠くを、足は地に」という言葉がありますが、この言葉にはどのようなメッセージが込められているのかわかりたいです。

### 明石名誉塾長

私はそれぞれの人が色々な事を考えるときに、やはり自分の目はできるだけ遠くの方に向かって、夢とか理想とか、やりたいこと、見たいこと、行ってみたいところ、そういうものについて自分の思いを馳せてみるということがとても大事ではないかと思っています。私は小さい子供の時から非常に好奇心が強く、その好奇心を満足させ、足元を固めるために、色々なものを読んだり、知っている人から聞いたりしていました。足元がふらふらしているのに、やたらに遠くの美しいところに行こうとする夢だけを追求するならば、その夢を実現することは非常に難しい。だから、できるだけ眼は遠くを見たいと同時に、足元を踏みしめ足元から出発する、これが大切だと思います。大きな夢をもち、それを実現するために、必要な準備、勉強を始める必要があると思うのです。そのような意味を「眼は遠くを、足は地に」に込めています。



### 井芹瑠莉さん(伊勢崎高校2年)

学校の探究活動で多文化共生について研究しています。多文化共生を実現するためには、まず何から始めるべきだと思いますか。

### 明石名誉塾長

世界中に約200の独立国がありますが、大きな国の中には、その一つの国の中に文化がいくつも併存していることもあるし、小さい国の場合は隣の国と本質的には同じ文化である場合もあります。例えばスイスは、小さな国ですけれども北に行くとドイツ語を話すスイスの国民がいて、南に行くとフランス語を話すスイス国民がいる。スイスでもこのような状況ですから、我々は多様な文化が沢山併存している世界に住んでいるわけです。科学や交通機関、通信機関等も発達した現代において、この世界というのは、小さくなっていく一方です。その中で共生を図るということは生易しいことではないと思うのです。色々な国の人と付き合ったり、コミュニケーションをとる中で、「お互いに一つの世界に住んでいるのだ」という意識の下、共生というのを真っ向から受け止めて、共同の生活を営もうという精神が大事だと思います。



【塾生の感想】

・やはり何事にも努力や経験は必要となることが分かりました。私は今まで知的好奇心や勉強に関する向上心などがあまり無い方だと思っていましたが、できないもの、分からないものをそのままにして諦めていたからだと分かりました。知的好奇心や向上心が弱いと思いこんでいたのだと気付きました。分からないものをそのままにしないで、人に聞いたり自分で調べたりして今まで以上に多くの情報を取り込む努力をしたいと思います。



・明石先生の意志の強さ、好奇心に驚きました。「眼は遠くを、足は地に」の意味を知り、私は今まで自分自身を見つめ直し成長させようと努力することも、将来の目標を決めることも曖昧になってしまっていたと反省しました。また、学びに対する姿勢にとっても感銘を受けました。明石塾を通して、自分の知的好奇心に素直になること、興味のない分野の内容でも積極的に学ぶと新しい発見があるということを知りました。

成果発表会・修了式 2月18日

午前は、研究員による発音や表現のチェックを受け、午後の本番に向けて最終調整を行いました。塾生たちは緊張した様子でしたが、繰り返し原稿を確認していました。午後の成果発表会では、スライドを効果的に用いて、緊張感の中でも堂々と発表していました。発表会後の修了式では、小林良江塾長（女子大学長）が修了証書を授与し、「明石塾で学んだことを原動力に、仲間たちとの絆を大切に、世界や地域で活躍する人材となってくれることを期待しています。」と式辞を述べました。塾生を代表して、富岡高等学校1年生形悠歌さんが、「明石塾での積極的なやりとりを何度か経験するうちに、周りの目を気にせず、もっと知りたいという純粋な気持ちを押しさへ込む必要はないということが分かりました。このことが明石塾の中で一番の気づき、自身の変化です。塾生との絆を大切に、これからも頑張っていきます。」と挨拶しました。



研究員と成果発表に向けた練習



成果発表会



塾長式辞



塾生代表挨拶

高等学校連携英語授業 英語授業のレベルアップを支援します

大学で教鞭をとる研究員が、高等学校の英語授業支援を積極的に行っています。令和4年度後期は、沼田女子高校、高崎経済大学附属高校、伊勢崎高校、高崎商業高校、高崎女子高校、中央中等教育学校の6校で授業支援を行いました。

今年度もSustainable DevelopmentやCulture and HistoryといったSDGsをテーマにして、授業を行いました。グループ活動や動画視聴等を通して、考え方や意見の共有を行い、活発な議論が展開されました。また、中央中等教育学校ではStory Telling Grand Prixの審査員として、内容的にも、文法的にも、よりよいStory Tellingができるよう、生徒へ助言を行いました。高崎女子高校では、単元のテーマである「異文化理解と固定観念」について、身近な例を題材に英語を使って考える授業を行いました。



沼田女子高校



高崎経済大学附属高校



伊勢崎高校



高崎商業高校



高崎女子高校



中央中等教育学校

## English Help Desk 英語で困っている学生をサポートします

学生の英語に関する悩みや課題のため、研究員が支援するEnglish Help Deskを設置しています。英会話はもちろん、プレゼン演習、留学相談、資格試験対策、卒論のデータ収集等、2月1日時点で延べ369名(昨年度128名)の学生が利用しました。また、大学院入試の英語問題の解説や指導など、内容によっては、研究所の日本人職員がサポートしています。「英語何でも相談所」として、学生の英語学習の拠り所となっています。面接練習を重ね、英検1級合格者も出ました。



研究員による英会話レッスン▶

## 留学支援 留学を希望する学生を全力で応援します

### 【令和4年度長期留学】 8名

#### 留学支援実績

外務省感染症危険情報レベルが全世界1に引き下げられたことを受け、本学でも渡航が認められるようになりました。今年度は、長期、短期を合わせて33名の県女生が世界へ飛び立ちました。外国語教育研究所では、各種説明会、危機管理セミナー等を開催し、学生が安心安全に留学できるよう、支援の充実に努めています。

	国名	大学名	種別	期間	人数
1	カナダ	ヒューロン大学	交換	9ヶ月	2
2		トンプソンリバーズ大学		10～11ヶ月	3
3	オーストラリア	グリフィス大学	独自	9～11ヶ月	2
4		ディーキン大学		10ヶ月	1

### 【令和4年度短期研修】 25名

	国名	区分	大学名	期間	人数
1	ニュージーランド	夏季	オークランド大学附属英語学学校	4週間	1
2			ワイカト大学附属英語学校+インターンシップ		5
3	オーストラリア	夏季	ロイヤルメルボルン工科大学附属英語学校	6週間	2
4			アデレード大学附属英語学校	5週間	3
5			西オーストラリア大学附属英語学校		2
6		ディーキン大学附属英語学校	6週間	1	
7		春季	西オーストラリア大学附属英語学校	5週間	2
8			ディーキン大学附属英語学校		4
9	カナダ	春季	サイモン・フレイザー大学附属英語学校	4週間	4
10	フィリピン	春季	CIA	3週間	1

### 学生親善大使委嘱状交付式（1月24日）

留学支援プログラムを利用して留学をする学生は、留学先で本県のPRや友好親善を図るために、群馬県学生親善大使を委嘱されます。委嘱状を交付した小林良江学長は、「外国に行くこと想像以上に、自分たちの国や住んでいる地域のことを訊かれます。しっかり準備して群馬をアピールしてください。」と激励しました。国際交流委員長のビドル教授(英米文化学科)は、「現地では、議論に積極的に参加して、自分の外国語表現力を磨いてください」とアドバイスをしました。文学部総合教養学科2年の鈴木華純さんは、「群馬県の観光親善大使として、留学中に多くの場面で群馬の魅力を発信し、世界と群馬を繋ぐ架け橋に少しでもなれるよう尽力していきます。」と挨拶しました。



代表学生へ小林学長から委嘱状を交付



ビドル国際交流委員長からの激励

### カナダ留学説明会（1月30日） マーク・ヨシダ研究員

カナダ留学に興味のある学生に対し、カナダ出身のマーク・ヨシダ研究員がカナダの気候や文化、大学選定のポイント、留学制度等を細部にわたり説明しました。継続的にカナダ説明会を実施すると共に、今後はアメリカ、オセアニア、韓国の留学説明会も併せて実施していきます。



マーク・ヨシダ研究員による説明▶

## グローバルカフェ 3年ぶりの開催です

グローバルカフェは、研究員と様々なトピックについて気軽に英語で語り合う県民英会話サロンです。コロナ感染対策を徹底した上で、3年ぶりに「トライアル・グローバルカフェ」として、11月24日(木)(18時30分～19時45分)に開催しました。30名の方にご参加いただきました。参加された方々は研究員に積極的に話しかけ、「カフェ」の雰囲気を楽しんでいました。さらに、2月21日(火)から3月14日(火)までの毎週火曜日(計4回)にも開催しました。38名の方が参加し、前回同様に、研究員や参加者同士の交流を図りながら、英語を使う楽しさを味わっていました。



11月24日のグローバルカフェの様子



2月28日のグローバルカフェの様子

## 明石杯高校生英語コンテスト 日頃の成果を出し切りました

11月11日(金)に「明石杯高校生英語コンテスト」(県高等学校英語部会、群馬県教育委員会との共催)が本学を会場に開催されました。地区予選を含め172名(昨年度161名)が参加し、予選を突破した84名が本選に出場しました。プレゼンテーションの部のテーマは、「How should high school students prepare to be adults at the age of 18?」でした。各部門に参加した高校生は、自分のもてる力を遺憾なく堂々と発揮していました。

### 2022年明石杯高校生英語コンテスト 結果

順位	部門	プレゼンテーション	レシテーション	スピーチ第1部	スピーチ第2部
1位		鴨田 萌愛 (中央中等 5年)	二宮 妃菜 (渋川女子 1年)	山田 小夜子 (共愛学園 3年)	望月 彩萌 (ぐんま国際アカデミー 2年)
2位		ウィザロー ジェイムズ (四ツ葉学園中等 5年)	星野 莉央 (共愛学園 1年)	小島 まりな (新島学園 2年)	長取 ハヤト (太田 1年)
3位		コルシノ アリヤ (高崎東 2年)	堂前 陽桜 (桐生第一 1年)	樋口 広美 (館林女子 2年)	蜂須賀 アンジェリーナ (共愛学園 2年)
4位		柿沼 夢果 (共愛学園 2年)	伊藤 まなみ (藤岡北 1年)	OGAWA GUSTAVO KENJI (太田工業 1年)	
5位		谷口 華梨 (ぐんま国際アカデミー 1年)	栗原 沙羅 (前橋南 2年)	永井 千尋 (渋川女子 2年)	
6位			石井 莉奈 (健大高崎 3年)	渋沢 美月 (中央中等 5年)	
特別賞		樋室 優水 (ぐんま国際アカデミー 1年)	竹内 杏祐 (富岡 1年)	阿久津 ほのか (商大附 2年)	椎名 ヒロカズ (玉村 1年)

## 玉村小学校の英語授業支援 研究員との交流を楽しみました

昨年度に引き続き、玉村町教育委員会との連携事業として、玉村小学校6年生の英語授業支援を行いました。食物連鎖について、児童が調べたことを、タブレットを用いてゲストティーチャーである研究員に英語でプレゼンテーションを行いました。最初は緊張していた児童たちも、研究員が相づちを打ったり、やさしい英語で質問したりするうちに、次第に落ち着いて話せるようになりました。自分たちが調べた単語や学んだ表現を駆使して、一生懸命に伝える姿が印象的でした。授業の終わりには、「自分の英語が通じてうれしかった」、「英語での質問に答えられた」と、授業のふりかえりをしていました。



小学生のプレゼンを聞く研究員

## “Think-About-the-Issue-Around-You” Seminar 「英語」を学ぶ再発見しました

外国語教育研究所では、高校生を対象に、「インプットの重要性を認識する」、「どうすればいい表現になるのかを検証する」、「細かな英語構造を考えながら丁寧にアウトプットすることの重要性を学び、今後の英語学習に活かすことを目的として、“Think-About-the-Issue-Around-You Seminar” という特別セミナーを3月8日(水)～9日(木)の2日間実施しました。42名の高校生(太田女子高校:19名、渋川女子高校:14名、渋川高校:9名)が参加しました。研究員がEnvironmental Issues、Identity、Stereotypesといったことをテーマにした英語授業や、本学国際コミュニケーション学部山岡健次郎先生は国際・社会問題だけでなく、大学で学ぶことの意義などについての講義を行いました。最終日は、グループごとに課題解決に向けディスカッションを行い、この2日間で学んだことを英語で発表しました。「もっと英語を勉強して、話せるようになりたい」、「グループで発表準備を行い、他の学校の人たちと議論できて楽しかった」など、多くの気づきや発見のあるセミナーとなりました。



◀ 高校生の英語プレゼン



山岡健次郎先生の講義

